

「移住初心者」が移住されたい方をお手伝いする！

皆さん初めまして。令和8年4月より地域おこし協力隊「移住リエゾン」に仲間入りしました本多正です。前任の鈴木憲人さんからのバトンを引き継ぎました。私で7人目になります。皆さん、これからお世話になります。よろしくお願ひします。

さて私は写真の通りの「白髪の小さいおじさん」です。あつ「小さい」までは写真では伝わりませんでした。もし私の声が聞こえても視界に入らない時は「見下げてください」。きつとそこにいます（これは私が好きな吉本新喜劇の池乃めだかさんの持ちネタです）。



移住リエゾンのメンバー

当然ですが、私は「にかほ暮らし」の初心者です。ところが職員の皆さんからは、初心者だからこそ見えてくる魅力こそが貴重なのだとお話がありました。是非この気づきを「移住を検討される方」に伝えてもらい、にかほファンを増やしていつてほしいともお聞きしています。

らし「1年生」の私が感じたにかほ市の魅力にまず挙げたいことは、「人の気さくさと出会いやすさ」です。確かにパンフレットに書かれていてはどこか嘘っぽくて伝わりにくい魅力ですよ。きっと魅力は大きさなものではなく、実際にそこで暮らす人々の中にこそあるのだと思います。皆さんにお会いし、何気ないお話を。そんな日々のやり取りを通して皆さんの力を少しずつ分けてもらい、物語として伝えていきたいと思ひます。



本多 正
Honda Tadashi
勤務先：連携推進課
出身地：愛知県

無意識の思い込み

■無意識の思い込み

「アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）」という言葉をご存知ですか？アン・コンシャス「無意識」とバイアス「思い込み・偏見」が組み合わさった言葉です。秋田県における人口減少、特に若い女性の流出原因の一つとして、この「無意識の思い込み」が大きく影響していると言われて指摘されています。たとえば、「少子化は女性の社会進出により非婚・晩婚化が進んだからだ」などです。確かに、日本では女性の社会進出と合計特殊出生率に負の相関があります。ところが、欧米の先進諸国では、女性の社会進出と合計特殊出生率には正の相関があります。日本とは逆です。

しかしながら、実は欧米の先進諸国も、今こそジェンダーギャップ（男女格差）改善に向けた取組みにより女性の社会進出と合計特殊出生率が正の相関になっていますが、1970年代は今の日本のように負の相関にありました。

■少子化は女性の大学進学が原因？

「女性が大学進学すると婚期を逃し少子化が進む」という言説がまことしやかに言われます。しかしながら、最近の日本での研究からこれは間違いであることが立証されています。また、その研究は「少子化の解決には、教育レベルの議論をするよりも、仕事と家庭の両立支援や、労働市場における男女平等など、制度上の壁を取り除くことが大事である」

ことを明らかにしています。かつての日本では女性が4年制大学に進学するのは稀でした。私が学生の頃も全体的にはそのような空気で、「進学しても短大、20代のうちに結婚し、そして寿退社する」がモデルケースみだりになっていました。

今は、女性が男性と同じように働き、キャリアアップしていくのが当たり前です。それに伴い社会制度の改革も進み、女性が働きやすい環境づくりが着実に進みました。このように若い女性の価値観あるいは人生観が大きく変化しているにもかかわらず、家事・育児は女性の負担となつたままです。そして、最近の調査結果は、結婚・出産・育児を希望する若い女性の数が減少し続けている理由の一つとして、日本社会に根強く残る「男は仕事・女は家庭」といった社会規範による性別役割分担への拒否感を浮かび上がらせています。

■隘路

これまでも市は、多くの企業や団体、あるいは人々に協力いただきながらさまざまな人口減少対策を進めてきました。その結果、令和6年は15人、令和7年は157人と2年連続で社会増を実現しました。ところが自然動態は大幅な自然減のままです。もっとも、少子高齢社会においては自然減は仕方ないことかもしれません。だからといって自然減を低く抑えるための取組みをしなくてもいいといったことにはなりません。ただ、以前

空き家のお悩みについて教えてください

1つでもあてはまるようでしたら、一人で悩まずにまずは気軽にご相談ください

- ◎誰も住んでいないし、住む予定もないので売却や賃貸を検討したい
- ◎築年数もだいぶ経っているので、売れないだろうと思っている
- ◎草刈りや屋根の修繕、県外在住なので実家じまいをどうするべきか

相談はコチラからも

私たちに相談ください!!

例えば、こんな制度の利用方法もあります!!

- 空き家情報バンク(売却・賃貸)** にかほ市内のお家を探している方に情報提供する制度です
- 空き家家財道具等処分費補助金** 空き家情報バンク登録者に対して家財道具等の処分に要する費用の2分の1を補助します(上限10万円)

空き家の個別相談会のお知らせ 8月12日(水) 10:00-16:00 相談無料です!!

売却、賃貸、管理、解体、撤去など宅建協会、司法書士会など専門家に直に相談できます!!

場所・プレステージインターナショナル秋田BPOにかほキャンパス研修室 ※先着予約8組まで

お問い合わせ先 にかほ市 連携推進課・移住リエゾン
TEL : 0184-43-7510 MAIL : renkei@city.nikaho.lg.jp

のコラムでも述べたように、さまざまな取組みをしてもなお出生数が好転しないのは、これまでの取組みだけでは対処できない問題が根底に横たわっていることを、私たちは再認識しなければならぬのだと思ひます。

■求められる価値観の書き換え

一昨年、市は県と一緒に、ジェンダーギャップ（男女格差）解消に向けた取組みとして講演会やワークショップを実施しました。以前に比べれば、ジェンダーギャップへの認知度は進んでいると思ひます。ですが、その内容に対する人々の認識には大きなズレがあります。前述のような「女性が働くのが当たり前になつたから、女性が結婚をしなくなつて子どもを産まなくなつた」や「女性活躍を辞め、専業主婦を増やせば少子化は解決する」といったような声が未だに聞こえてくるのがその証です。

人口減少対策のメインターゲットである若者、特に若い女性の生きづらさが結婚や出産のみならず、地方で暮らすことをためらわせているとするならば、過去を知る私たちこそがこれまでの考え方や価値観の書き換えをしていかなければならないのだと思ひます。



にかほ市長 市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

